

大会競技規則

少年の部(幼年・小学生・中学生)

1. 競技方法

- ・ 3 本勝負(2 本先取した者の勝ち)とする。
- ・ 1 本先取後、試合時間終了の時、1 本先取者の優勢勝ちとする。
- ・ 判定により勝敗を決する場合は、次に示す順番により判定する。

①警告の有無 ②試合内容「優勢・劣勢」 ③技能

(1) 試合方法 予選リーグ・決勝トーナメント戦方式

- ・ 取得本数が同数の場合は引き分けとする。

リーグ戦の順位は以下の順位で判断する。

- ①勝ち数が多いもの ②負け数が少ないもの ③取得本数が多いもの
- ④取られた本数が少ないもの

以上が同数の場合は再試合を 1 分間の 1 本勝負の延長戦を行う。

さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

再試合がリーグ戦になる場合は、1 分間の 3 本勝負とし、⑤警告の有無を順位の判断材料に加える。(予選リーグ戦で、それでも勝敗が決しない時、じゃんけんによって勝敗を決する。)

・ 決勝トーナメント戦は、試合時間内に勝敗が決しない時、1 分間 1 本勝負の延長戦を行う。さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

(2) 試合方法 トーナメント戦方式

- ・ 試合時間内に勝敗が決しない時、判定によって勝敗を決する。
- ・ 三位決定戦、決勝戦は、試合時間内に勝敗が決しない時、1 分間 1 本勝負の延長戦を行う。さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。

2. 試合時間

- ・ 試合時間は、1 分間 30 秒とする。

ただし、予選リーグ戦の試合時間は、1 分間とする。

3. 小学 4 年生以上は「少年ソフト面」を着装する。顔面への攻撃は全て「空撃」で当てない。男子中学 3 年生のみ「一般面」を着装し、面への直接打撃を必要とする。

全学年共、顔面への蹴り技は横蹴りのみとする。

4. 小学 4 年生以上は、股あてをすること。道着の外に着用すること。

5. 「少年面ソフト面」の脱落放らんについては、警告対象としない。

6. 使用できる「少年ソフト面」は、「日本拳法全国連盟」が販売する公認の面、又は大会実行委員会が認めた面とする。

7. 肘や膝へのサポーターは綿の入っていないものは認める。

8. 小学生中学年部門において、小学 3 年生以下は「少年ソフト面」と股あて着装は任意とする。

9. その他は、日本拳法競技連盟競技規則に則って行う。

大会競技規則

高校生、一般の部

1. 競技方法

- ・ 3 本勝負 (2 本先取した者の勝ち) とする。
- ・ 1 本先取後、試合時間終了の時、1 本先取者の優勢勝ちとする。
判定により勝敗を決する場合は、次に示す順番により判定する。
①警告の有無 ②試合内容「優勢・劣勢」 ③技能

(1) 試合方法 トーナメント戦方式

- ・ 試合時間内に勝敗が決しない時、1 分間 1 本勝負の延長戦を行う。
さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。
- ・ 三位決定戦、決勝戦は、試合時間内に勝敗が決しない時、時間無制限の 1 本勝負の延長戦により勝敗を決する。

(2) 試合方法 リーグ戦方式

- ・ 取得本数が同数の場合は引き分けとする。
リーグ戦の順位は以下の順位で判断する。
①勝ち数が多いもの ②負け数が少ないもの ③取得本数が多いもの
④取られた本数が少ないもの
以上が同数の場合は再試合を 1 分間の 1 本勝負の延長戦を行う。
さらに勝敗が決しない時、延長戦における判定によって勝敗を決する。
再試合がリーグ戦になる場合は、1 分間の 3 本勝負とし、⑤警告の有無を順位の判断材料に加える。

2. 試合時間

- ・ 試合時間は 2 分間とする。
ただし、一般男子 (有段) の試合時間は 3 分間とする。

3. 大会では日本拳法全国連盟認定の製品の表足プロテクターの任意着装を認める。

4. その他は、日本拳法競技連盟競技規則に則って行う。

【新型コロナウイルス感染症対応限定規則】

- ・ 選手へ事前に笛・口頭での宣告に直ちに従う事を周知徹底する。(宣告声量抑制の為)
- ・ 接触時間の短縮をはかる～組打ち技の時間短縮 3 秒以内目安。
- ・ 無声の気合でも技の充実により決め (一本) となる事を再認識の上判断する事。
- ・ 一本の判定基準 (撃力) に関しては、通常時と同様とする。
- ・ 膠着状態 (組打ち・寝技) 解消又は危険技防止の際でも選手に接触せずに、主審の「待て」の宣告・副審の笛で制止する。